

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（特別研究・一般研究）

研究代表者 所属・職名 臨床・健康教育学系 准教授

氏 名 池田 吉史

研究期間 平成30年度～平成31年度

(令和元年度)

研究プロジェクトの名称	附属学校と連携した特別な教育的ニーズのある子の学習支援プログラムの開発
研究プロジェクトの概要	<p>本研究は、附属小学校と連携して、小学校の通常の学級に在籍している特別な教育的ニーズのある子どもの学習支援プログラムを開発することを目的とするものである。</p> <p>本研究の特色は、①附属小学校をフィールドとして附属小に通う児童を対象とすること、②特別支援教育や教科学習を専門とする大学教員及び附属小教諭が連携すること、③大学院授業科目「発達障害教育臨床実習」「発達障害応用教育臨床実習」として実施することにある。</p> <p>本研究の意義は、①特別な教育的ニーズのある児童に対して継続的な学習支援を提供できること、②通常学級と連携した「通級による指導」を想定した学習支援を実施できること、③大学院生が理論に基づいた高度な教育実践力を学修できることにある。</p>
研究成果の概要 ※申請時にチェックした「取組課題」との関連とその成果も明記すること。	<p>1年目は、大学院生7名が週に1日ずつの頻度で各学級において学習支援を必要とする児童を対象として、ニーズの把握、アセスメント、個別の指導計画の作成、支援の実施、ケース会議・カンファレンスの開催に取り組み、学習面・生活面・社会面の支援を実施した。カンファレンスは、計19回にわたって開催し、支援ニーズや支援方針の共有を図った。また、必要に応じて、放課後学習支援の実施や特別支援教育実践研究センターにおける教育相談を実施した。課題として、学習障害様症状のある子どもを対象とした学習支援方法のさらなる充実化が考えられた。</p> <p>2年目は、学習障害のある子どもの心理アセスメントに基づく学習支援方法の考案とその効果の検証を行った。文字読みに困難のある子ども1名を対象として、ICT教材を用いた指導方法を考案して実施したところ、特殊音節（拗音）の読みが指導前後で著しく向上することが示された。</p> <p>本研究を通して構築された特別な教育的ニーズのある子の学習支援プログラムは、現代的教育課題の解決の一助になると考えられる。</p>
研究成果の発表状況	池田吉史・笹川美智・庄司智美・高木梨子・和田智秀・佐藤昌史・堀井優希・笠原芳隆・藤井和子・岩崎浩・松岡博志・青木弘明・石口昇・中林直哉. 附属学校と連携した特別な教育的ニーズのある子の学習支援プログラムの開発(1). 特別支援教育実践研究会第7回実践研究発表会, 5, 新潟, 2018年12月. (ポスター発表)
学校現場や授業への研究成果の還元について	本研究を通して構築された特別な教育的ニーズのある子の学習支援プログラムについて、大学院講義や更新講習・認定講習等で現職教員や大学院生に紹介するとともに、同プログラムを各校の実態に合わせながら公立校においても実施することが今後の課題である。